

平成19年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

全国学力・学習状況調査が4月24日に実施され、その結果が10月24日に文部科学省から各小・中学校に送付されました。狛江市教育委員会では、市内の小・中学校ごとの分析の結果と課題について、つぎのようにとりまとめましたので、ご報告します。

調査の目的

- 全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、改善を図る。

調査の対象

- 原則として当該学年の全児童生徒
- 【小学校】第6学年 467名/483名
- 【中学校】第3学年 353名/366名

調査の時間

- 【小学校】国語A (20分)、算数A (20分)
国語B (40分)、算数B (40分)
児童質問紙 (40分)
- 【中学校】国語A (45分)、数学A (45分)
国語B (45分)、数学B (45分)
生徒質問紙 (45分)

調査の内容

- 【教科に関する調査 (国語、算数・数学)】
- 主として「知識」に関する問題
 - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
 - ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能 など
- 主として「活用」に関する問題
 - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
 - ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など
- 【生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査】
- 児童生徒に対する調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - 《例》国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況 など
 - 学校に対する調査
 - ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況
 - ・児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査
 - 《例》授業の合間や放課後における補充的指導の状況、学校における教育の情報化の進行状況など

調査の結果

【小学校の平均正答率】

公立小学校の結果	国語A (知識)	国語B (活用)	算数A (知識)	算数B (活用)
東京都	82.8%	66.0%	83.7%	65.7%
全 国	81.7%	62.0%	82.1%	63.6%

【中学校の平均正答率】

公立中学校の結果	国語A (知識)	国語B (活用)	数学A (知識)	数学B (活用)
東京都	81.6%	72.0%	71.4%	60.6%
全 国	81.6%	72.0%	71.9%	60.6%

【小学校 国語】

- 国語A (知識) について、狛江市の児童は東京都の平均正答率を上回っており、今回出題された学習内容をおおむね理解している。
- 国語B (活用) について、狛江市の児童は東京都の平均正答率を上回っているが、知識・技能を活用する力に課題がある。

話すこと・聞くこと

(A) 話し方に関する知識 (聞き手の反応を確かめながら話す) や聞き方に関する知識 (要点をメモに取りながら聞く) の理解に課題がある。

書くこと

(B) 説明文で述べている事柄の理由を要約すること、資料から必要な事柄を取り出して与えられた条件に即して書き換えることに課題がある。

読むこと

(B) 文章の内容と資料の情報とを関係付けて正しく読み取ることに課題がある。

小学校の分析と課題 (狛江市)

【小学校 算数】

- 算数A (知識) について、狛江市の児童は東京都の平均正答率と同程度で、今回出題された学習内容をおおむね理解している。
- 算数B (活用) について、狛江市の児童は東京都の平均正答率を上回っているが、知識・技能を活用する力に課題がある。

数と計算

- (A) 数の意味と大きさの理解に課題がある。
- (A) 問題文から式を考えることに課題がある。
- (B) 計算の工夫を理解し、その計算方法を説明することに課題がある。

量と測定

(B) 地図から複数の図形を見だし、必要な情報を取り出して面積を比較し、説明することに課題がある。

数量関係

- (A) 計算の順序についての決まりを理解して計算することに課題がある。
- (B) 百分率を用いて問題を解決することに課題がある。
- (B) 式の形に着目して計算結果の大小を判断し、根拠を明確にして説明することに課題がある。

【中学校 国語】

- 国語A (知識) について、狛江市の生徒は東京都の平均正答率を上回っており、今回出題された学習内容をおおむね身に付けている。
- 国語B (活用) について、狛江市の生徒は東京都の平均正答率を上回っているが、知識・技能を活用する力を更に身に付けさせる必要がある。

書くこと

- (A) 手紙の後付けの書き方についての理解に課題がある。
- (B) 複数の資料から得た情報を整理して、伝えたい事柄や自分の考えを明確にして書くことに課題がある。

読むこと

- (A) 情景描写を書き手の工夫に着目して的確に読み取ることに課題がある。
- (B) 文章の展開や心情の変化に着目して、工夫しながら朗読することに課題がある。

言語事項

(A) 文脈に即して漢字を正しく読み取り書いたりすることに課題がある。

中学校の分析と課題 (狛江市)

【中学校 数学】

- 数学A (知識) について、狛江市の生徒は東京都の平均正答率を上回っているが、基礎的・基本的な知識・技能を更に身に付けさせる必要がある。
- 数学B (活用) について、狛江市の生徒は東京都の平均正答率を上回っているが、知識・技能を活用する力に課題がある。

数と式

- (A) 文字式が表す意味の理解や方程式における移項の意味の理解に課題がある。
- (B) 結論が成り立つことを証明するために必要な条件を示すことに課題がある。
- (B) 条件に合う式を見だし、文字式を用いて表し説明することに課題がある。

図形

- (A) 円柱と円錐の体積の関係の理解に課題がある。
- (B) 仮定と結論の意味を理解して証明の構想を立てることに課題がある。

数量関係

- (A) 反比例の表を完成させることに課題がある。
- (A) 確率の意味の理解に課題がある。
- (B) 数量の関係を理想化したり、実際のデータを単純化したりして数学的に表現することに課題がある。

児童生徒質問紙からの傾向 (全国)

○家庭学習・読書

- ・家で学校の宿題をする児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- ・読書が好きな児童生徒、家や図書館で普段から読書をする児童生徒の方が、国語の正答率が高い傾向が見られる。

○学習塾

- ・学習塾 (家庭教師を含む) で勉強している公立学校の児童の割合は約45%、同生徒の割合は約60%である。
- ・学習塾 (家庭教師を含む) で「学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している」児童生徒、「通っていない」児童生徒、「学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している」児童生徒の順に、正答率が高い傾向が見られる。

○基本的生活習慣

- ・朝食を毎日食べる児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- ・学校に行く前に持ち物を確認する児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

○家庭でのコミュニケーション

- ・家の人と学校での出来事について話をする児童の割合は約69%、生徒の割合は約58%である。
- ・家の人と学校での出来事について話をする児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

○自尊意識・規範意識

- ・自分にはよいところがあると思う児童の割合は約72%、生徒の割合は約61%である。
- ・将来の夢や目標を持っている児童の割合は約84%、生徒の割合は約71%である。
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- ・学校のきまり・規則を守っている児童の割合は約86%、生徒の割合は約85%である。
- ・学校のきまり・規則を守っている児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。